

解答

①	問1 a 前兆現象 b 地震予知 問2 六種類 問3 イ	①	各4点×8＝32点
問4 エ 問5 (1) a 普遍性 b 震源 (2) イ 問6 ア		②	各4点×8＝32点
問7 ウ		③	各2点×10＝20点
②	問1 サバサバ 問2 イ (終わり)きりになる 問4 エ	④	各2点×8＝16点
問3 (初め)子猫の世話 (終わり)きりになる 問4 エ			
問5 a 一銭にもならない b 充実			
問6 a 自分だけのもの b 無駄			
問7 自分以外のものに時間を使うこと 問8 ウ			
③	問1 (1) 石 (2) 筆 (3) 百 (4) 山		
問2 (1) エ (2) カ (3) イ			
問3 (1) 口 (2) 日 (3) 機			
④	(1) はせい (2) いっきょう (3) せんさい (4) こころえる		
(5) 規律 (6) 政治 (7) 内蔵 (8) 責める			

採点基準 ① 問1・問5(1) ② 問3・問5・問6 各完答 ④ ⑤ 「規律」も可。

【解説】

① 説明的文章 説明文の読解
 出典は、『島村英紀』『日本人が知りたい地震の疑問66』。この文章は、「地震の予知はいつごろできるようになるのでしょうか」という質問に答える形で書かれたものです。地震の多い日本に住む誰もが、地震が予知できるようなってほしいと願っていることでしょう。しかし、その願いが強すぎるあまり、科学的でないものに頼ってしまうとは危険です。文章を読んで、地震予知の現状をしっかりと読み取っていきましょう。

問1 (内容理解) パンフレットが作られた当時は、地震の前兆現象を多く見つければ地震予知の可能性が高まると考えられていたためである。

問2 (内容理解) 前震活動、前震以外の地震活動の何らかの変化、地殻変動の異常な変化、地磁気・地電流の異常、ラドンや水温など地下水の異常、地盤の隆起や沈降、の六種類が挙げられている。

問3 (表現内容理解) 「一般に、「バラ色」は好ましい物事に対して使われることをふまえ、それが「色あせ」とは、どういふことかと考える。筆者によれば、地震予知研究の未来はどうなるのか。

問4 (接続語) 地震の前兆現象について、前では「再現性や普遍性がない、あとでは、系統的でないばかりでなく定量的でない」と、問題点を並べて述べている。

問5 (内容理解) 文章の内容を図示する問題では、書いてあることを理解するだけでなく、それを整理して示す力も必要となる。

(1) aは、ある地震で起きた現象が別の場所でも起こるのであれば「普遍性」があると言えるが、そうではないのである。bは、「定量的」ではない「こととして」「震源に近づくと前兆が大きくなる」ともないし、地震の大きさが大きいほど前兆が大きい「こと」ともない。aとbの両方とも「科学的でない」として注目する。

問6 (文脈) 「前兆現象」が起ってから地震が起きるといって、前兆現象と地震の関係性がなければ、地震予知はできないことをおさえる。

問7 (要旨) 筆者は、地震予知が「いつ可能になるのか、そもそも可能かどうか、はいまの科学ではわかっていない」と考えていて、地震と前兆現象の因果関係についても、科学的な見地から疑問視している。

配点

② (文学的文章) 小説文の読解

出典は、『保坂和志』『生きる喜び』。目の見えない子猫と出会った「私」と妻は、自分たちでその猫を飼うことにし、盲目の子猫のために、「私」は自分の時間をささげる覚悟を決めます。「自分のことを何もせずに誰かのことをだけをする」ことに充実感をもつ「私」の生き方を読み取っていきましょう。

問1 (内容理解・表現) 「サバサバ」は、気がかりなことがなくなると気分がすっきりするさまを表す。

問2 (心情・朗読) ほかに飼ってこれそうもないから自分たちで飼うしかないという覚悟を決めたことで、心が軽くなったのである。

問3 (内容理解) 「書けなくなった」のは小説。五月は「子猫の世話にかかりつきりになる」ために、その間は「自分のこと」すなわち小説を書くことはできないのである。

問4 (心情) 「躊躇」とは、ためらいのこと。「私」は「状況を引き受け」たのである。

問5 (内容理解) 自分に見返りがなくても、「誰かのことをだけをする」というのは、じつは「一番充実する」と「私」は考えている。

問6 (内容理解) 前の部分で述べられている、「人間が絶対だと思っている人は無駄だと思ってしまう」の二つの思いが、「私」には、ないものである。

問7 (指示語) 直前の内容を指している。

問8 (主題) 以前病気の飼ひ猫の世話をしたときに、「私」は「自分以外のものに時間を使うことの貴重さを実感し」、今回の子猫に対しても、「自分のことを何もせずに誰かのことをだけをする」というのは、じつは「一番充実する」と思っている。

③ (ことわざ・故事成語・四字熟語)

問1 (ことわざ) 似た意味を表すものや、反対の意味を表すものを組にして覚えておくとよい。

<p>●似た意味を表すことわざの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 月とすっぽん ちようちんに釣り鐘 ● あぶはち取らず 二兎を追う者は一兎をも得ず ● 急がば回れ 急いで仕事は仕損ずる ● 医者の不養生 紺屋の白ばかま ● 猫に小判 豚に真珠 ● 泣きつ面に嘘 弱り目にたたり目 ● 猿も木から落ちる 弘法にも筆の誤り 	<p>●反対の意味を表すことわざの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 渡る世間に鬼はなし 人を見たら泥棒と思え ● あぶはち取らず 一石二鳥 ● 善は急げ 待てば海路の日和あり ● まかぬ種は生えぬ 棚からぼた餅 ● 下手の横好き 好きこそ物の上手なれ ● 立つ鳥あとを濁さず あとは野となれ山となれ ● (旅の恥はかき捨て)
--	---

問2 (故事成語) 代表的な故事成語の意味は、その言葉が生まれるもともなになった故事とともに覚えておくようにする。

問3 (四字熟語) (1) 「異口同音」は、多くの人が口をそろえて同様のことを言うこと。「異口同音」と書かないようにする。(2) 「一日千秋」は、非常に待ち遠しいこと。(3) 「心機一転」は、あることをきつかけにすっかり気持ちが変わること。「心機一転」と書かないようにする。